

『神の恵みが現れたから』 テトス2:11-14

2:11 すべての人を救う神の恵みが現れた。

2:12 そして、わたしたちを導き、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、

2:13 祝福に満ちた望み、すなわち、大いなる神、わたしたちの救主キリスト・イエスの栄光の出現を待ち望むようにと、教えている。

2:14 このキリストが、わたしたちのためにご自身をささげられたのは、わたしたちをすべての不法からあがない出して、良いわざに熱心な選びの民を、ご自身のものとして聖別するためにほかならない。

●序論

以前、ひとつの証を読みました。

第二次大戦の時、米軍軍人40名を乗せた飛行機が南太平洋に不時着しました。乗組員40名は救命ボートで24日間もの間漂流しましたが、誰一人命を失うことなく全員が救助された。その中で、人々は神を求めて助けを求め、そして救われるという経験をした。

この手記ではそこまで。その後彼らがどのように歩んだかは記されていません。

どこかで彼らが教会につながっていたならいいなあと思います。

わたしたちも同様です。そこから始まる信仰生活「ふさわしい生き方」がカギとなります。パウロはテトスに言います。

(LB):1 しかし、あなたは、教えられた真理にふさわしい生き方を人々に教えなさい

そしてこうも語られています。

(LB) :14 キリストは、私たちの罪のためにご自分をささげ、神のさばきを受けて死んでくださいました。それは、罪のどろ沼にはまり込んでいた私たちを助け出してご自分の民とし、心のきよい、熱心な、善意の人と変えてくださるためでした。

●本論

I. 恵みはすでに現れた

(新共同訳) 2:11 実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵みが現れました。

聖書は、新しく恵みを見出だせ、とは言わず「2:11 すべての人を救う神の恵みが現れた。」と、すでにあらわされている恵みがあることを示します。

そうした事実の目撃者ヨハネが証言して語ります。

ヨハネ1:14 …わたしたちはその栄光を見た。それは父のひとり子としての栄光であって、”めぐみとまこととに満ちていた”。

改めて、今日「実に、すべての人々に救いをもたらす神の恵み…」とあります。

あのボートの中にいた人たちの経験。

ある人は「苦しい時の神頼み」という言葉で表現する人もいるでしょう。

それでも、神さまは変わりません。いやすでに変わらない恵みをイエス・キリストを通してあらわされたという、それが福音なのです。パウロの証言です。

ローマ5:8 しかし、まだ罪人であった時、わたしたちのためにキリストが死んで下さったことによって、神はわたしたちに対する愛を示されたのである。「すべての人々に救いをもたらすほど大きな神の恵み」なのです。

Ⅱ. 恵みが促す生活がある

神の恵みは、わたしたちの生活を、そして人生をつくり変えるものとなるのです。

2:12 そして、”わたしたちを導き”、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、

罪をゆるされた者として、この世のさまざまな悪や過ちに気づき、神の恵みにふさわしく生きる者へと変えられていくというのです。

聖書でイエスさまと出会ったいろいろな人の物語も思い出してください。

ザアカイヤ、あの姦淫の現場でとらえられてきた女性が、その後どのような人生を歩んだかを聖書は語っていません。

聖書は、救われた人たちに、ふさわしい生き方を促していることだけは事実です。

それが、神の恵みを感謝し、「不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活」することです。

賛美「アメイジング・グレース（驚くばかりの恵み）」を作詞したジョン・ニュートン。

彼の人生の物語を一言でいうなら、「元奴隷商人であったけれども、嵐の中での救いの体験を通して変えられ、神を信じて宣べ伝える牧師となっていった人」ということができます。

しかし、ここで注意していただきたいのです。彼の生涯の物語をつぶさに知っていくとき、それほど単純な言葉では、あらわされないものであることに気づかされます。

彼は、何度も危険から命を救われるような奇跡をあじわい、そしてその中で何度も神さまに立ち帰る…ような体験をしてきたのです。

なぜ、クリスチャンになりながらも、しかも当時牧師になりたいという願いも持ちながらもなお、そのような生活を続けていたのか…、そう思いませんか。

実はその理由は簡単です。周囲もみな、そんなこと当たり前のことだと思っていたからなのです。

奴隷の売買は、当時の普通のこと、当たり前のことであったのです。

ここで覚えていてほしいのです。ジョン・ニュートンは、すべての悪事をやめたから、また、悪事であることに気づいたから救われたのではありません。

彼は、イエス・キリストを、罪びとの自分の罪をゆるし、新しい人生を与えるお方であると”信じて”救われたのです。

それから後、彼は信仰者に変えられてから、多くの出来事・事件、出会いを通して、自分の身近にある、当たり前と思われていた奴隷売買の過ちについて、神さまの喜ばれないことと気づき、彼は生き方、生活そのものが変えられていったのです。

2:11-12 すべての人を救う神の恵みが現れた。そして、”わたしたちを導き”、不信心とこの世の情欲とを捨てて、慎み深く、正しく、信心深くこの世で生活し、…

★「神の恵み」が、わたしたちを、健全な人へと導くのです！

すべての人、あのジョン・ニュートンをも救い、わたしたちをも救う！ さらに罪について気づきを与え、この世の標準ではなく、神の御心に適った、正しい人生へと導く、それが「すべての人を救う神の恵みの力」なのです。

あのジョン・ニュートンは、その経験した神の恵みを、「アメイジング・グレース（驚くばかりの恵み）！」と歌い上げているのです。

さてもしかしたら、わたしたちは日常で慣れ親しんでいる「罪の生活や習慣」があるかもしれません。

だからこそ、イエス・キリストの福音に心を向けましょう。その”恵みに導かれて生きる”ことの大切さを覚えたいのです。そこで時に気づきが与えられ、悔い改めが与えられ、新しい、正しい生活をも与えられるのです。

Ⅲ. 栄光のあらわれを待ち望む

2:13 また、祝福に満ちた希望、すなわち偉大なる神であり、わたしたちの救い主であるイエス・キリストの栄光の現れを待ち望むように教えています。

聖書は、多くの個所で、イエス・キリストが再び来られることを証します。

それはいつ来るか、わかりません。ただ「(この約束)を信じなさい」と語るのです。それを「祝福に満ちた希望」と表現します。

だからわたしたちの人生に、ある人は大きな使命を抱きビジョンを掲げ、その願いと理想を神さまに訴えつつ歩む人のゴールは、この希望にあります。

それは、人それぞれ違うさまざまな使命、また願いです。

…でも覚えてください。すべてにおいて神さまの働きを求めることです。

ジョン・ニュートンは、数十年の長い戦いで心身ともに疲れて果てていたウィルバー・フォースにはこんなことを書いて送っています。

「…ですが、今は問題は人間の手を離れ、神の手の中にあるのです。」。

「すべては神の御手にある」と言い切る信仰の言葉が、どれほど幸いなものか。

おそらくわたしたちの「願望」は、わたしたちの手で、問題を解決でき、ことを成就することで、だから「どうか神さま御業を見せてください…」と祈るでしょう。しかし、わたしたちが「祝福された希望」に立つとき、すべてはわたしの手を離れ、神さまの御手の中にある。主よ、あなたの時に、あなたの最善のわざをなしてください、と祈ることができるのです。

○さいごに

2:14 (LB) キリストは、私たちの罪のためにご自分をささげ、神のさばきを受けて死んでくださいました。それは、罪のどろ沼にはまり込んでいた私たちを助け出してご自分の民とし、心のきよい、熱心な、善意の人と変えてくださるためでした。

ここに、キリストがわたしたちのためにいのちをも捨ててくださったことの原因と目的があります。

わたしたちは”すでに” あらわされた神の恵みによって支えられ、わたしたちの今を、この恵みによって導かれ、そして「祝福された希望」を待ち望みつつ、ふさわしい歩みを築き上げていく。そういう者とされているのです。

聖歌に記された「驚くばかりの恵み」の歌詞の最後にはこうあります。

御国(みくに)につく朝 いよいよ高く 恵みのみ神を たたえまつらん

わたしたちにとっての祝福された希望は、再び来られる主、そして御国にあります。今年、標語を「主にある望みを証ししよう」としました。どうかこの御国の希望をしっかり自分のものとし、そこに至るまでの歩みを励ましあいつつ建て上げていきましょう。